

## 韓国倭城の調査の思いで

上田, 耕  
南九州市教育委員会文化財課(ミュージアム知覧)

<https://doi.org/10.15017/1508408>

---

出版情報 : 歴史を歩く時代を歩く : 服部英雄退職記念誌 : とことん服部英雄, pp.314-315, 2015-03-31. 九州大学大学院比較社会文化研究院服部英雄研究室  
バージョン :  
権利関係 :

## 韓国倭城の調査の思いで

上田 耕

服部英雄先生が、文化庁の調査官時代の平成四年から知覧城跡（鹿児島県南九州市知覧町）の国指定史跡に関わっていただき、保存整備委員会などで多くのご指導、ご助言等を頂きました。それ以来、何かとお世話になっております。

九州大学大学院へ転職されて、まもなくだったと思います。松原孝俊（九州大学韓国研究センター）先生と共に韓国の倭城を測量調査するので参加しないかと声をかけていただきました。

さっそく、鹿児島からは南さつま市（旧加世田市）の文化財担当の職員と共に重い測量器具を担いで、同行させていただきました。釜山では羅東旭（釜山市博物館）さんに案内していただき、釜山の私立大学の先生らも加わって調査することになりました。金海竹島城をはじめ、船に乗っての加徳島倭城の調査、順天倭城、泗川倭城などを調査しました。さすがに八月の炎天下で石垣に繁茂する葛の根の除去作業は困難を極め、調査一日目には喉は乾くは、体力はなくなるはで、早くも参陣したのを後悔しましたが、服部先生は、さすがにタフで、いくら歩いてても体調は衰えず、私たちは先生に付いていくのがやっとでした。順天倭城の四日目の測量調査は、困難を極めました。測量にあたり、平板は釜山から大学の方で持参してくるということでしたが、肝心の平板台の止めねじを忘れたらしく、固定できなくて、仕方なくガムテープで固定して、その場をしのぎ、測量したのを憶えています。

服部先生は、この日も意欲满满で元気に広大な順天倭城の遺構測量のためピンポイントも持つて遺構をまわっていました。私たちは地元元の測量業者らと共に平板測量を行いました。しかし、図面の記入の仕方に違いがあり、せっかく記入した線を消さ

れたり、強引に妙な線を記入されたりして、なかなか進まず、腹は立つはで、日韓意見の相違に測量は困難を極めました。またこの日、調査中に雑草が生い茂る畑を歩いていると所有者が俺の土地に無断ではいるなと韓国語をまくしたてられ、叱られるはで、たいへんな一日となりました。暑さのせいもあって、食欲はなく、喉は乾き、水は底をつき、手元にあつたどぶどぶの甘い梨ジュースでは喉は潤おせず、体力は衰えもう限界でした。挙句の果て苦労して取った図面も、原図は国外持ち出し禁止だと言って釜山の大学に没収され、結局コピーを持ち出す始末で、小西行長軍が明・朝鮮軍に囲まれ苦労した順天倭城と聞きますが、文祿・慶長の役で豊臣秀吉



【写真1】加徳島での石垣の葛の草を除去して進む服部先生。



【写真2】調査の合間のひと時。順天倭城にて。

軍に従って参陣した諸大名とその兵隊たちの苦労が、時代の空間を超えて蘇ってくるような不思議な感覚を憶えました。あれから数十年が経過して、あの時、みんな苦労して測量した図面はどうなったのかと気になっていたところでしたが、『史跡で読む日本の歴史』第八巻（吉川弘文館、二〇一〇）で服部先生がその図面を掲載しているのを知りました。それを拝見した時、あの時の苦労が報われたような気がしました。数十年経過してもあの時の調査を無駄にしなかつた先生の歴史の解明に対する熱い思いと熱意に感心させられました。同時に研究への情熱に改めて敬服いたしました。

大学退官に当たり長い間お勤めご苦労様でした。ありがとうございます。

（南九州市教育委員会文化財課（ミュージアム知覧））